文部省

教育映畫時報

2

昭和四年十二月

文部省社會教育局

始

目次

一、新作映畫解説……一
覺めよ國民……一
日出づる國……三
二つの世界……一三
二、映寫機の取扱に就いて(一)……一九
三、内外教育映畫問題時報……二三
教育映畫國際協會……三三
山形縣社會教育映畫協會……三七
四、フィルムの頒布に就いて……三九
五、フィルムの貸與に就いて……四二
六、文部省製作活動寫眞フィルム目錄……四五

發行所寄贈本

279-56

新作映畫解説

覺めよ國民　全二卷

豊葦原瑞穗國と讃へられたる我が國が、經濟上なめつゝある苦難の現狀を、人口、生活物資、天然資源、貿易、國債等各種の方面より解剖し、この國家の難局に際して、尙浮華放縱浪費奢侈等の弊風著しきを指摘して、博く國民の自覺に訴へ、擧國一致勤儉力行以て國力を培養してこの難局を打開すると共に、他日躍進の素地を作るべき方途を示した映畫である。

內　容（大字は字幕、小字は説明字句）

第一卷

覺めよ國民

全日本國民に告ぐ

我が國は建國以來三千年、無比の國體を有し、皇威普く世界に輝く

天惠豊かに風光美しき豊葦原瑞穗國と讃へられた國土

然しこの國土も常にそのやうに豊かに平穩であるとはいへない

目　次

それは何故であるか。先づ經濟方面から
我が國の現狀を見るに
人口の增加率は、一分間に一・八人即ち約二人の割合にして
世界の第二に位し
人口は年々約九十萬を增加してゐる
約九十萬と云へば、それは略岩手縣の人口に等しい。即ち
岩手縣ほどの人口が年々增加するのである
人口の增加は喜ばしい、然し生活物資の生產は果してこれに伴ふであらうか
否
そこで
先づ主食物米について考へよう
米は
十年前に比較すれば
產額　二百八十四萬石增加
人口　六百九十四萬人增加
消費額　九百二十二萬石增加
これを割合を以て示せば
產額　五分一厘增加
人口　一割二分七厘增加
消費額　一割五分八厘增加
この割合によつてもわかるやうに
米の產額は人口の增加と消費額の增大に伴はない
乃ちこの爲に朝鮮臺灣からも米を移入してゐるが尙足りない
そこでその不足は外國米を輸入して補はねばならない
その最近五ヶ年間の輸入額を平均すれば
一ヶ年の米の輸入額約三百三十萬石
である
然るに米ばかりではなく、外國に仰ぐ生活物資は驚くべき額である
試みに波止場を見よ。其處には巨大な汽船が幾艘も棧橋に着いて荷を揚げてゐる

棉
先づ、國民の主要なる衣服材料である

肥料
次に農業上缺くべからざる豆粕即ち

各種工業の根柢となる
鐵

又、時代の要求する新しい衣服材料としての
羊毛

日常缺くべからざる食料品
砂糖

建築材料としての
木材

これ等我々の衣食住に缺くべからざる重要物質も輸入によつて辛じて國民の需要を滿たしてゐるのである

これ等物資の輸入金額は

重要輸入品價額（昭和三年）

	億
棉花	五五、〇〇〇萬圓
羊毛	一一、二〇〇萬圓
木材	一一、一〇〇萬圓
機械	九、二〇〇萬圓
油糟	八、七〇〇萬圓
鐵	八、三〇〇萬圓
豆類	六、六〇〇萬圓
小麥	六、八〇〇萬圓
砂糖	六、五〇〇萬圓

これ等は重要輸入品のみであるが、この他に尚十億以上の物質が年に輸入せられてゐるのである。

加ふるに、我が國は近代工業の根柢たる鐵、石炭、石油等に乏しい

今それ等の産額を列國に比較すれば

石炭

米	五億二七八七萬二千佛噸
英	二四七〇八二千佛噸

獨	一三二六二二千佛噸
佛	四七〇四六千佛噸
日	三四〇六八千佛噸

比較的豊富なりと謂はれてゐる石炭さへ、我が國の產額は列國の末位にある

次に石油產額を米國のそれに比較するに

石油

米	一〇四六八〇千佛噸
日	二七七千佛噸

我が國の產額は米國の約四百六十分の一に過ぎない

鐵

米	四六一二三千佛噸
獨	二二一四四千佛噸
佛	一五九一七千佛噸
英	一三八六六千佛噸
日	一萬一千佛噸

鐵の產出量の列國との比較を、圖表を以て現はさんとするも、我が國のみは同一圖面上に現し難き程の少額である。

以上を要約すると、今日我が國に於ては

人口增加
生活必需品不足
天然資源欠乏

といふことに歸着し、これ等の事情の爲に結局

輸入

に次ぐに

輸入

となり、これを秤に例ふれば常に輸出よりも輸入が重くて均衡のとれない狀態である。即ち

この狀態からしても海外貿易は輸入超過になり勝であるその上……

忘るゝことの出來ない

彼の大震火災は百億の富を奪ひ去つた

この復興の爲に國家は多大の負擔を增し

この爲に經濟上の困難は更にその度を加へた

即ち、貿易は著しく輸入超過となり、今日に至るもその狀態は恢復せず

最近十ヶ年間輸入超過額累計四十二億一千九百三十萬圓

に達した。この輸入超過額は、貿易外の受取勘定で差引されるのであるが、それでも尙足りない今日は、金を外國へ支拂はればならない。然るに、我が國に於ては大正六年以來金の輸出は禁じられてゐる。そこで

これを平衡させる爲に外國にある日本の財產

即ち

在外正貨を以て補はねばならない

今、金庫の中に藏められた金貨を以て在外正貨に例ふれば、輸入超過はその金貨によつて償はれるのであるが、貿易は次の年も、又次の年も輸入超過となり、これが平衡させる爲に在外正貨が用ひられる。かうした狀態が續けば、在外正貨には限りがあるので遂には缺乏して外國への支拂が出來なくなる。そこで、その不足は外國から借金することになる。即ち、借金して外國から物資が買入れる結果になる。

かくして國の借金（外債）が增加する

今日我が國は旣に

外國債十四億五千百三十萬圓

が有つてゐる。即ち、昨今の我が經濟界の現狀は外には貿易の逆調が續き、外債は夥しい額に昇り內には產業の萎靡不振が漸く深刻となりつゝある。

かくて對外信用は墜ち通貨の價値は下落する

即ち外國爲替相場の下落であつて、大正十三年末には日本の通貨が米國のそれに比し實に二割二分も低落した。

これは國家の威信に關はるばかりでなく必然的に物價を騰貴せしめ國民の生活を脅すことになる

こんな狀態がつゞく限り、我が經濟界は容易に安定が得られず、極度に萎靡縮小して、その前途には暗い影が横たはる。

この重大なる秋にあたり國民は果して自覺してゐるであらうか？

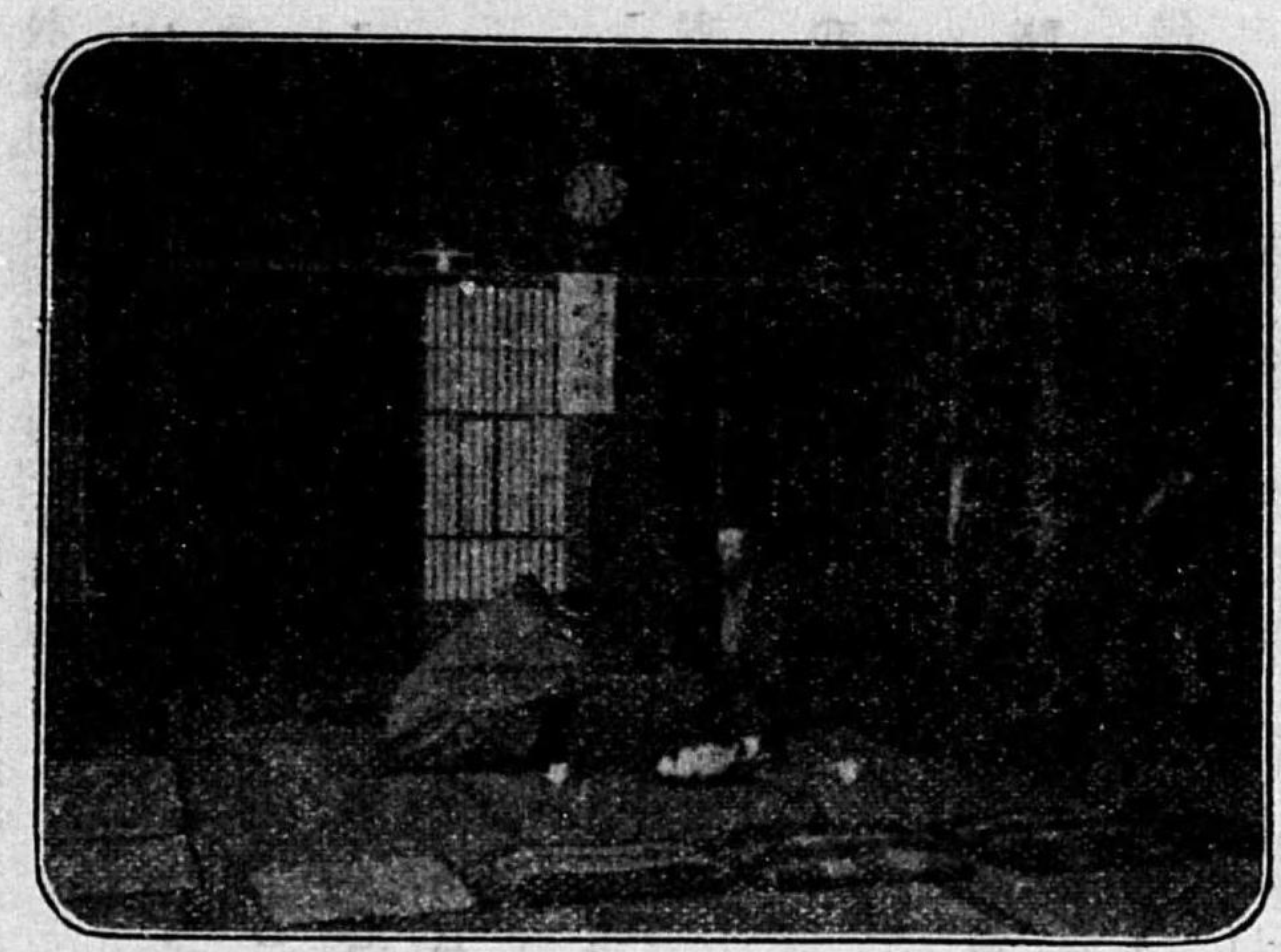
第二卷

我が國民の生活を見るに

一般の風潮は

議論のみ多くして實行これに伴はず

ではあるまいか。この風潮は質朴な農村にまでも擴つて行きつゝある。繁華な都會はいふも更なり、日常到る所で目にする激しい光景はその世相を示すものではあるまいか。即ち自己の利害を考へるに急にして、動もすれば國家社會に對する共同の責任が忘れ勝である。仕事にかゝるべき汽笛は鳴つてゐる。然し働かうとしない



ものはないか。仕事の手は動いてゐる、然し心がそれに籠つてゐるか、或は樣々な享樂の空想で頭の中は滿ちてはゐないか。――國家の經濟難局に際し、我が身邊に眼を注ぎ、國民として大いに自省しなければならない。

年々煙にする二億七千萬圓

これが國民の喫煙のために費される金額である。

無智や不注意の浪費

第一に擧げねばならぬのは時間の觀念の乏しいことである。集會などに時間を守らない者がある爲に多數の人々の迷惑と時間の浪費は實に夥しい。又、仕事と休養との節度なき生活。こんなことが昔のまゝで案外省みられてゐない。これも時間の不經濟でたゞ仕事の能率を低下させるばかりである。睡眠中は消した方が經濟的でもあり衞生的でもある電燈。既に湯は十分沸つてゐるのに尙然してゐる瓦斯。水道の栓をよくしめないのや出しつ放し。これ等は僅かの注意で防がれる浪費である。所謂井戸端會議や雜談に時の

たつのを忘れたやうな婦人達。磨きながらこぼす米。それは極めて些細なものの樣ではあるが、假に

一世帶で米を百粒づゝ粗末にすれば全國では六萬五千石を失ふことになる

落穗、俵の積み下しの時こぼれる米等も積れば驚くべき量になるであらう。

それのみか年々四百萬石以上の米がつぶされて酒になる

この酒が我々の生活に必要であるか否かは別として、さなきだに年々不足する國民の主食物が、斯くの如く夥しく潰されるといふことは看過できない。それのみか、斯くして造られた酒が獻酬といふ古い習慣から無理強ひしたり、捨てたりする。實に甚だしき浪費である。

無駄の多い習慣

その最も甚しいものは、冠婚葬祭の儀に伴ふ習慣である。例へば、分不相應の婚禮衣裳、必要以上の調度類。そんな巨費が投じた仕度も只一時の虛飾に過ぎず、多くは徒らに簞笥の中に死藏され、徒らに土用干の煩しさを增すばかりである。又、葬式に於ける虛禮的な贈物、地方によつては悲しみの家で酒食をとる弊風さへある。

虛榮を滿す奢侈

きらびやかな指環、高價な化粧品、舶來煙草、洋酒等。單なる趣味や嗜好の範圍を出でゝ愈々贅澤になる。この贅澤の許すべからざるは國家の現狀に見るまでもなく明らかである。その上、かうした贅澤は一方では舶來品尊重の弊を伴つて來る。これは正に國家を二重に苦しめるものである。

心の緩み安逸放縱

かくて歡樂を追ふ人々の如何に多きことよ。その人々が口にする盃やコップに、或は親の勞苦、或は妻子の愛情が知らずして飲まれてはゐないであらうか。又、放漫な生活に耽溺して踊り狂ふ人々。國家を危殆に導くことも知らずして歡樂に醉ふ人々。それは宛も噴火山上に亂舞しつゞけてゐるに等しいではないか。

然るに國家の狀態は、たとふれば……

堪え難い重荷を負うて苦んでゐる人の如きものである。その重荷とは？　現下の經濟難局である。加ふるに國民の安逸放縱、浪費、奢侈等の弊風、は或は舶來品尊重、二重生活等の弊習と共に益々その負擔を重くし、いよ〳〵國家の重荷が增す。國家の前途は實に憂ふべきである。

然らばこの難局を如何にして打開すべきか

それは

擧國一致

あるのみである。

耕す者、鍛ふる者、或は野に、或は街に、老も若きも、皆心を協せ力を一にし、假令その仕事は千種萬様であらうとも、等しく

生活改善

能率增進

冗費節約

國産愛用

を實行し、即ち

勤儉力行

せば、如何なる難局と雖もこれが打開は決して困難ではないであらう。

かくて、國民の普き自覺により、我が國力は培はれ産業は振興し、貿易は恢復し、國債の償還も行はれ、爾餘の幾多の問題と共に、この經濟難局も亦打開せられるであらう。

かくて我が國は建國の昔の神の御言葉のやうに彌々宇内に榮えるであらう

——終——

日出づる國　全三卷

光輝ある我が歷史をたづね、遠く建國の昔より現代に至るまで、各時代幾多の國難に、君民一體擧國一致よくこれに處し、我が國文化を進展せしめた過程を示し、更に、今新に我等に直面せんとする國難を暗示して、國體觀念養成並國力培養に資せんとする。

内容　（大字は字幕、小字は説明字句）

第一巻

日出づる國

一萬邦に冠絶せる我が國體の精華は、實に遠き祖先より君民一體擧國一致の發露に外ならぬのである。我が國柄は、宛も富士の靈峰の高く、雲表に聳ゆる如く世界に比ひなき實にうるはしい國柄である。

維新玆に六十年

東洋の一孤島であつた我が國は、世界の列强に伍して、その長を採り短を補ひ、幾多の試練と犧牲を拂つて今や世界强國の一として宇内に雄飛するやうになつた。これぞ我等同胞八千萬の

努力の結晶

に外ならのである。

然し、この異常なる我が國今日の進展は決して偶然のことではない。

この現代にいきづく我等の生命にもなほ遠き祖先のこゝろ宿るを思へ

遠く建國の昔を見るに

高天原

漠々たる雲海。鬱蒼たる大森林。木の間よりさす一條の光明。これぞ我等が天祖天照大神の尊き御姿である。

民草は皆大神の前にひれ伏し。その德を慕ひ奉り、手に手を取つて喜び踊る。

あはれ、あな面白

あな樂し、あなさやけをけ

世は更に大神の力によつて光を得、民草は營々として生業にいそしむ。

この時、天照大神御孫瓊々杵尊に神勅を賜はり

豐葦原千五百秋の瑞穗の國はこれ我が子孫の王たるべき地なり寶祚の隆えまさんこと當に天壤と共に窮無かるべし

と仰せられた。

斯くて、天孫瓊々杵尊は日向の高千穗に降り給ひ、こゝに我が瑞穗國の歴史は始るのである。然るに、國内未だ禍多く倘皇威の及ばぬ所があつた。そこで神武天皇の御東行となつたのである。

高千穗の宮居におしましたる神倭伊波禮毘古命天神の御詔を畏み國の最中にて天が下の政を平けく聞しめさんとて東行し給ふ

日向の高千穂より東に向つた皇軍、それは實に苦心慘憺たるものであつた。海を渡り、山を越え、草を分けて

力其處に道を求め漸く浪速に着き給ふたのである。

鳥見の土豪長髄彦といふもの饒速日命を奉じて皇軍を遮へ撃つ

土豪の力侮り難く皇軍の奮闘もその甲斐なく、天皇の御兄五瀬ノ命も傷き給ひ戰況甚だ不利であつた。

鴨建津之見命

大鳥の如く翔つて皇軍を導き

日の神に向ひて弓引くは天道に逆ふものなり

との仰せをかしこみ、皇軍は日に向ふことを避くる爲紀州へ廻りそれより大和の國へと向ひ

日の神の威を負ひて攻め給ふ

神德あらたかに、皇軍の向ふ所破竹の勢を以て土賊を破ることができた。かくて大和を平定遊ばされ其所に初めて都を定め給ふたのである。

山林を披き拂ひ宮室を經營り恭みて寶位に臨み以て元天を鎭めん、上は則ち乾靈國を授け給ふの德に答へ下は則ち皇孫正を養ひ給ふの心を弘めん

大和の地に都を定められたので、民草は喜び勇んで土工にいそしみ、山を拔き林を伐り、日ならずして宮殿は造營せられた。

第二卷

辛酉の年春正月朔日

天皇橿原宮に即位し給ふ、この歳を紀元元年とす

先づ皇祖を祀り給ひ、次で即位の大禮を行はせられ、文武百官の祝賀を受けさせられたのである。集る者みな、天皇の御德をたゝへ、一同弦を鳴らし劍杷を打ち、祝の酒を頂いて御即位を言祝ぎ、永く忠誠を誓つた。

畝傍の橿原に底磐根に宮柱太しき立て高天原に千木高知りて天の下を治め給ふ

斯くして、我が國は三千年の遠き昔より

君臣一體父子の如し

聖壽萬歳を稱へる彌榮の叫びは森にこだまし、皇威は益々四方に輝き渡る。

これぞ國體の精華

歷代の天皇深く民を慈み給ひ、萬民亦天皇の御德を慕ひ奉り、永く平和の時代が續いたのである。

たかきやにのぼりて見れば煙たつ民のかまどはにぎはひにけり

仁德天皇の御歌にも民を慈み給ふ尊い大御心がうかがはれるのである。

斯くして、永く平和の時代が續いたのである。

然るに、突如

國難來

元　寇

世界を席卷せる元の大軍は潮の如く我が國へ攻め寄せた。壹岐對馬はまたゝく間に攻め破られ、十萬の大軍は舳艫銜むで堂々と筑前博多へ迫つた。

蒙古襲來

敵軍つひに上陸、避難する住民。敵の石火矢によつて炎々と燃立つ民家、その悲壯なる有樣は我が國威も地に墜ちんとするかのやうであつた。竹崎季長、河野通有等九州中國の武士は皆祖國の難に赴き、身を挺して勇猛果敢に戰つた。されど、當時既に火藥を有し、團體戰術による敵の大軍には抗し難く、我が國は全く危急存亡の場合に立到つた。

この時

龜山上皇

宸襟を惱ませられ御身を以て國難に代らんと祈らせ給ふ

上下の至誠は正に天に通じたのであらう。一天俄かにかき曇り、神風吹き起り、雷鳴轟き電光きらめくと見る間に豪雨沛然として強暴の元の大軍も一夜にして逆卷く怒濤の間に殲滅し盡した。

敵國降伏

當時を偲ぶ御扁額は今も筥崎神宮に揭げられ白砂青松の間に永く當時を物語つてゐる。

時は移り世は變り、織田豊臣の時代も過ぎ德川幕府の時代となつた。然れども

姑息なりし鎖國德川幕府三百年輕佻浮華の風巷に滿ちて

その時

裝いかめしき江戶の城下も、今や奢侈放逸の風漸く俗をなし、世を擧げて太平の夢を貪るやうになつた。

黑船！　黑船！

晴天の霹靂、太平の夢は破れた。

警鐘は亂打される。急使は走る。黑船來航！それは全く江戶の巷を混亂せしめた。

攘夷　開港

世論囂々、衆議紛々、幕府は周章狼狽その極に達した。然れども、鼎のわく如き世論の間に、大勢の赴くところよく難局を解決して、その向ふ所をあやまらなかつたのである。やがて

大義名分定まり

王政復古

數百年に渉る封建政治も幕府の政權奉還と共に錦旗の東上となり、茲に維新の鴻業は全く成つたのである。

明治大帝の大御心

明治天皇深く民の心を汲み給ふて萬古不磨の

憲法發布

せられ、次いで

帝國議會

を開設せられ、四民に國政參與の權を與へられた。かくして、新日本の基礎こゝに定まり、世界に飛躍する氣運が漸く熟したのである。然るに、この國運進展の前途に當つて一大事變が起つた。

東洋の風雲急

遂に日清ゝ國交は斷絶し、やむなく隣邦互に干戈の間にまみゆることゝなつた。

日清戰爭

豊島牙山の戰、旅順威海衛の激戰、砲煙彈雨の中に陛下の赤子は皆君國の爲に一命を捧げて顧みなかつたのである。噫、これぞ尊き擧國一致の精神の發露でなくて何であらう。大和魂の向ふ所敵なく連戰連捷遂に大勝を制した。國威は益々あがり、吾が地位は世界に愈々重きを加へたのである。

斯くして平和の十年は過ぎた。

東洋平和の爲

我が國は遂に露國に宣戰の已むなきに到つた。

風雲復急

日露戰爭

幾百萬の我が將卒は、陸に海に奮戰力闘終に世界の强剛露國を屈服せしめた。勝利を誇る我が日章旗、その翻る陸には擧國一致の尊い犧牲があつたのである。斯くて國威は中外に輝き、今や我國は世界列强中に優位を占むることゝなつた。

第三巻

平和來

この二大國難の試練を經て我が國は世界に文化の覇を競はんとす

昭和

明治大正を經て今や昭和の御代となつた。

教育は普及し、學問藝術は興り、產業は盛となり、運輸交通は發達し、あらゆる方面に新文化の發展は目覺しいものがある。

試みに、都會に於ける人家の稠密さ交通の繁劇を見よ。

最近科學を應用せる近代工業の進展を見よ。

陸に、海に、空に運輸交通の發達を見よ。

近代文化を象徴する高層建築物を見よ。

早朝より深更に至るまで絶間なき活動の繁劇を見よ。これ等は、我が國近代文化の著しい躍進を物語るものでなくて何であらう。

されど歐米近代文化の進展を見よ

悠々數千哩の天空を翔る航空船。それは精緻を極めた科學文化の象徴である。

世界の大都會、ニューヨーク、パリー、ロンドン等の繁榮を見よ。

學術に産業に、其他各種の方面に、彼我國情の相異はあるにしても、今日尚我等が歐米に學ぶべき點が少くないであらう。

今や新しき國難は我等に直面す

然しながら、歐米文化の無批判なる移入の結果は

眼前に展開する大ビルディング、大百貨店、それ等の象徴する物質文明の陰には、既に種々の害毒が流れ、怖るべき禍を胚胎してゐる。例へば

浮華放縱

ジャズに踊り狂ふ青年男女の一群。都會の夜に歡樂を追ふ人々。都鄙到るところ、我が國の使命を忘れて放慢なる生活に耽溺せる憂ふべき人々が少くない。又

輕佻詭激

己れの職務を忘れ、徒らに喧々囂々、人を怨み、世を呪ふ樣な人々が所々に輩出するやうである。これ等は一例に過ぎないが、畢竟宇内に比ひなき尊き我が國柄を忘れた我が國民の

無自覺

によるもので吾々國民として深く反省すべきである

同胞八千萬

我等の内に流るゝ祖先の血潮を淨め世界に力を發揮せよ

——終——

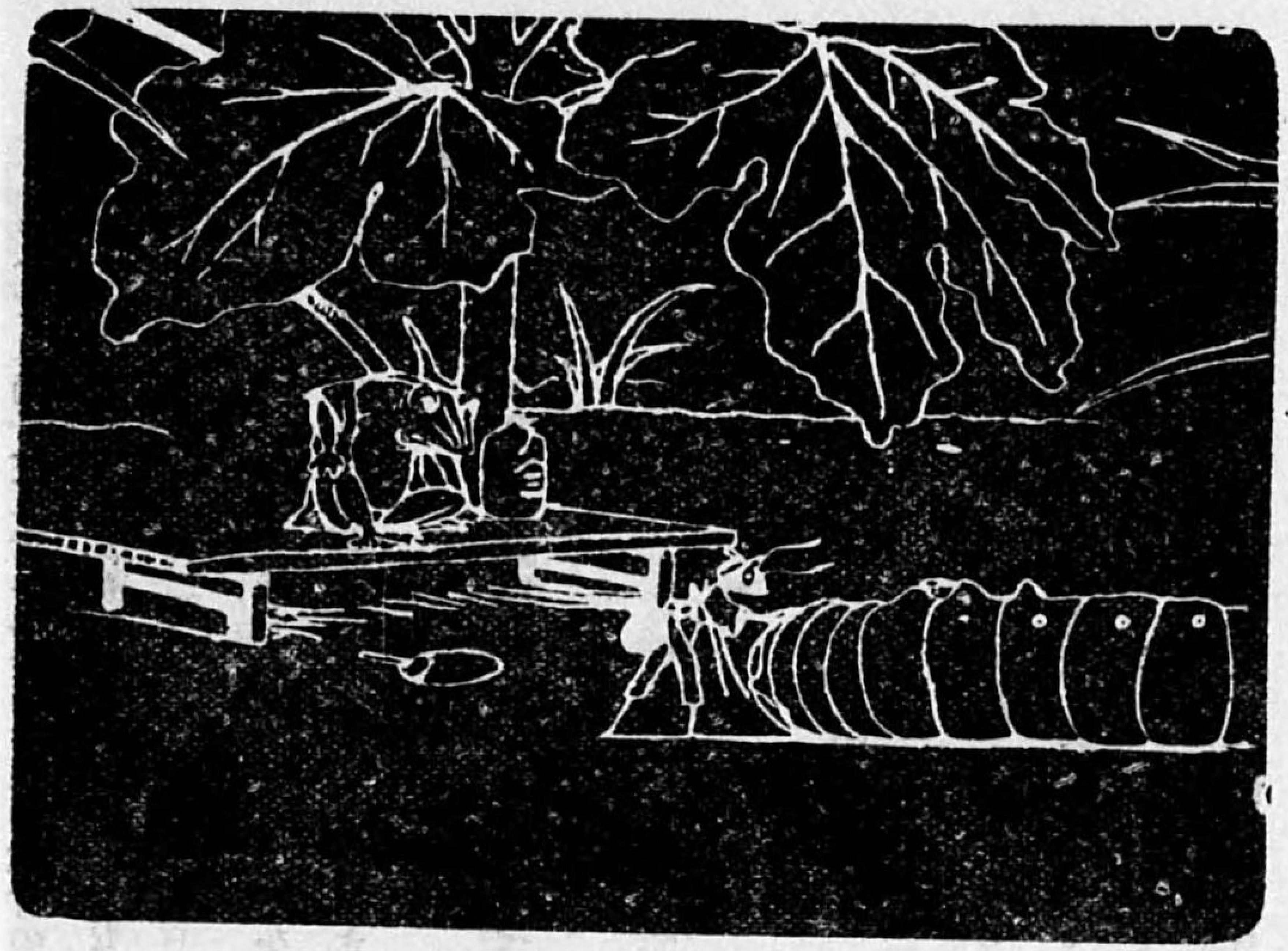
二つの世界

全一巻

勤勉な蟻と安逸放縱に暮す蛙、螽蟖、蝶等の二つの生活を對照して、「夏歌ふものは冬泣く」といふ勤儉力行の訓へを興味深く説示した清新なる敎訓漫畫である。

内容（大字は字幕、小字は説明字句）

眞夏の晝、生ひ茂る草葉の下に蟻の親子は一匹の芋虫を汗みどろになつてひいて行く



一升徳利を側に晝寢をして居た怠け者のヒキ蛙は、蟻の親子を見つけて

大した御馳走を見つけたなア！

蛙は舌なめづりをして

半分置いて行つたらどうだい

蟻は汗をふき〳〵

そうはいかない、だが土橋の向ふに芋虫がも一つ轉がつて居たよ、それをとつて來たらどうだ

といつて急いで行き過ぎる。蛙は

そうか、日が暮れたら出かけよう

と呑氣なことを言つて縁臺に寢てしまふ。

×

夏の草花美しく咲きれる中に、きりぎりすと蝶は卓を圍んで樂しさうに食事をして居る。

其傍を蟻の親子が芋虫を曳きながら通る。

蝶は立上つて大仰に

おゝ臭い、何て厭なものを持つて行くんでせう!!

きりぎりすも立上つて

おい早く通つてくれ、食事の前を困るぢやないか

蟻の親子は叩頭して又も芋虫を曳いて行く。其後を見送つて

然し此の暑いのによく働へわね

と蝶が言へば

損な性分さ

ときりぎりすは身をそらす。

×

蟻の住家では軒下の縁臺に握り飯を皿に山盛りにして、蟻の親子はうまさうに茶を呑んでゐる

父蟻は母蟻に向つて

娘は？

母蟻は茶をつぎながら

けふは朝から張物で一生懸命ですよ

家の背戸で姉さん冠りの娘蟻が張物をしてゐる。

草花茂る陸に浮れて居るきりぎりすと蝶の歌が聞える。

あのハイカラさん達はほんとに氣樂な身分だね

と母蟻が言へば父蟻も相槌を打つ

毎日朝から晩まで浮かれ通しだ

息子蟻は握り飯を食べながら

おい等も一日位あんな暮しがして見たいな

父蟻は子蟻を叱るやうに

馬鹿なッ！　夏歌ふものは冬泣くつて譬へがある……

今に解るよ

息子は默つて食事をつゞける。

×

夏が過ぎ秋が來る

やがて木枯が訪れる

夏中歌つて暮したきりぎりすはその報いが來て、今は衣服も破れ杖をたよりに乞食となつてしまつた。それに引かへ蟻の家は明るい光の下に、樂しさうに父蟻と子蟻とが腕角力をして居る、

年はとつても、まだお前にや負けぬぞッ!!

と言つた父蟻が子蟻のためにコロリと負ける、と母蟻や娘蟻は笑ひ崩れる。

その時窓を叩く者がある。それは乞食姿のきりぎりすであつた。

蟻は夏の間貯めた食物をわけてやる。きりぎりすは幾度も叩頭をして、又ヨボ〳〵と立去る。

娘蟻は思ひ出したやうに

可哀さうにお蝶さんも秋過ぎからドッと床について、昨今がむづかしいさうですよ

ほんとに氣の毒だね、あの人も今の樣子ぢや此の冬が越せさうにもないね。

子蟻は薪をくべながら

ヒキ六の爺さんも中風が出て動けないそうだ

そこで、父親は改まつて

どうだ伜、夏うたふものは冬泣くといふ事がよく解つたらう

とさとす。子蟻は今こそ父の訓へがよく解つた

父蟻は更に言葉をつゞけて

先を考へないもの丶行末は皆そうしたもんだ。

お互によそ事と思つちやならぬぞ。

外は寒さうな月が枯木立の間に冴えてゐる。その中にたゞ蟻の家だけが、あか〳〵と明るく暖かに輝いてゐる

夏歌つたきりぎりすは、この寒空に淋しく憐れな姿をヨロ〳〵と運んで行く。

—終—

映寫機の取扱に就いて　（其一）

活動寫眞映寫機には、種々雜多の名稱や形狀のものがあるが、概ね原理は同一であり、構造は大同小異である。故に、何れか一の映寫機について、その構造を知悉し、取扱方を熟練するならば、何れの映寫機の使用に際しても左程困難を感じないであらう。

總て機器は、無理解に扱ひ、無責任に使用すれば、その效率を低下させ、著しく壽命を短縮させるものである。殊に映寫機の如く比較的精巧で微妙な動作をする機械に於ては、一層甚だしいものである。機械の全能力を發揮させ、永く使用に堪え得させせんが爲には、例へば慈母が愛兒に對するやうな理解と愛護心とを以つて取扱はねばならない。この事は、單純で最も實行し易い事のやうであり、寧ろ言はずもがなの事のやうであるが、最も一般的の不注意である

映寫機は、利用の目的に從つて二種に大別することが出來る。即ち、劇場、常設館、講堂等に据附けて用ふる大型のものと、官衙、學校、團體等で使用する携帶に便利な小型のものとである。こゝでは、主として後者に就いて各主要部の取扱上の注意を記すことにする。

電球に關する注意

位置に注意すること

フキラメントを正しくコンデンサーの方へ向け、フキラメントの中心がコンデンサー及フキルム窓（フイルム、ゲイト）の中心と一直線上にあるやうに取付けねばならない。然らざれば、電燈の効率を低下させ、映寫畫面を不鮮明にする。

供給電壓に注意すること

電球は所定電壓のもとに使用するのが最も能率が良いやうに設計してあるから、供給電壓の僅かな低下でも電球の光力は著しく低下する。斯る場合、電源が交流ならば變壓器を用ひて電壓を上げて使用しなければならぬ。しかし又、電壓を上げ過ぎると、光力は強くなるが、過熱の爲フキラメントを切斷する虞がある。

振動に注意すること

電球の生命はフキラメントにある。フキラメントは脆弱のもので振動等によつて切斷する場合が多いことは周知の事であらう。故に映寫機運搬等の場合は、特に注意が必要である。

豫備球を用意すること

電球は相當期間使用すればフキラメントが自然に切斷する。のみならず、取扱不注意等の爲損することもあり、何時フキラメントが切れるか豫想できない。故に、映寫に際しては不時の故障に狼狽せぬ様豫備の電球を用意して置くことが望ましい。

電動機（モートル）に關する注意

靜かにスタートすること

最初から所定の電壓を與へ、急激にスタートすることは、映寫機の爲にもフイルムの爲にもよろしくない。故に、スタートは靜かにして、徐々に速度を高めることが望ましい。

供給電壓を適當にすること

なるべく電動機の銘板（ネイム・プレート）に記載してある電壓を與へねばならぬ。若し電壓が降下してゐる場合は變壓器を用ひて適當に調整する必要がある。

熱と音響に注意すること

廻轉時に於ける機體の過熱や音の不調は、電動機或はその使用上何等かの缺陷のあることを證するものであるから充分檢査してその原因を除くやうにせねばならぬ。

軸承に油注を怠らぬこと

注油が不充分であると軸や軸承の磨滅發熱の原因となり、甚だしきは、軸が燒付き使用不能になることもある。

整流子（コムミユテーター）を清滑にすること

コムミユテーターにカーボン・ブラツシユの粉が附着すると、火花の起る原因となり、コムミユテーターを損傷する。故に、時々布片等でコムミユテーターの面を拭ひ、尚火花の甚だしい時は、極く目の細い紙鑢（サ

ンド・ペーパー）でコムミユテーターを磨りその面を平にしてカーボン・ブラツシユとの接觸を圓滑にする必要がある。

適當なカーボン・ブラツシユを用ふること

カーボン・ブラツシユは成るべく所定のものを用ひ、コムミユテーターに觸れる壓力を常に適當に保つやうせねばならぬ。

變壓器（トランスフオーマー）に關する注意

接續電源に注意すること

變壓器は、電源が交流である場合にのみ使用し得るものであるから、直流には絶對に使用してはならない。

接續方向を誤らぬこと

一次線（プライマリー）と二次線（セコンダリー）を逆に接續すると、變壓器使用の目的に反するばかりでなく、不慮の故障や危險を伴ふ虞がある。又、二次線を短絡して使用してはならない。それは過大電流の爲に變壓器が燒けてしまふから。

電壓に注意すること

接續すべき電源の電壓が何ヴオルトであるかを確め、然る後變壓器を接續しなければならない。これを誤ることは非常に危險である。

内外教育映畫問題時報

教育映畫國際協會　その設立と規程

一九二七年第八回國際聯盟總會に於て、イタリー政府は、ローマに教育映畫國際協會を設立し、之を國際聯盟規約第二十四條に基て國際聯盟の管理下に置かんことを提案した。そこで總會は、特別委員會を設けて審議したる結果、イタリーのその好意ある申出を謝し、尙聯盟理事會をして關係團體殊に國際聯盟の學藝協力國際委員會と協議の上、適當なる措置を執らしむることゝした。爾來、理事會は協議を重ね、遂に一九二八年八月三十日規約を決定し、次で九月二十六日協會長及び協會理事を任命した。協會長はローマ大學法學部教授アルフレッド・ロツコ氏、我が國よりは前國際聯盟事務次長新渡戸稻造氏が理事に任命された。

かくて、同年十一月五日、開設式はローマに於て盛大に開かれ、國王、ムツソリニ首相、聯盟理事會代表ヴイレガス氏その他知名の士が多數參列した。

イタリー政府が、右の協會設立を提案したるは、イタリーに於て教育上活動寫眞を使用せる結果の頗る良好なるに鑑みたる結果にして、その爲に同政府は、協會に對し建物を無償にて提供し、その費用は全部負擔（年額六十五萬リーラ）する等、諸種の便宜を供與することを約した。

教育映畫國際協會構成規程

第一條　教育映畫國際協會ノ所在地ハ羅馬トス

第二條　映畫協會ハ理事會カ必要ナリト認ムル一切ノ方法ヲ用ヒ教訓、藝術・工業、農業、商業、衛生、社會教育等ニ關スル教育フイルムノ製作、頒布及諸國間ニ於ケル交換ヲ奬勵スルコトヲ目的トス

第三條　教育映畫國際協會ノ事業ハ國際聯盟理事會ノ指導ノ下ニ行ハルヘシ、國際聯盟理事會ハ右問題ニ付テハ學藝協力國際委員會ニ諮問スヘシ

第四條　協會ノ機關ヲ左ノ如ク定ム

一、理事會

二、常設執行委員會

三、幹　事

第五條　理事會ハ一名ノ議長及十一名ノ理事ヲ以テ組織セラルヘシ、右理事ハ能フ限リ異レル國籍ノ者タルヘク且國際聯盟理事會ニ依リ任命セラルヘシ　理事會ニハ個人ノ資格ニ於テ參加スル學藝協力國際委員會委員三名（但シ右三名ノ中ニハ議長及伊太利國委員ヲ加フヘシ）右委員會ノ四小委員會委員各一名（但シ委員總會ニ加ハラサル委員中ヨリ選定セラレタル者）及國際聯盟兒童保護委員會委員一名ヲ加フヘシ

右伊太利國委員ハ當然理事會ノ議長タルヘシ

第六條　國際聯盟事務總長ハ本人又ハ代理人ヲ以テ顧問ノ資格ニ於テ理事會ノ會議ニ參加スルコトヲ得

學藝協力國際協會幹事亦同シ國際勞働事務局長ハ「ヴエルサイユ」平和條約第八篇及其ノ他ノ平和諸條約ノ對等條項ノ規定ニ據ル勞働機關ニ關スル事項ヲ對議スル場合ニハ同一ノ條件ノ下ニ會議ニ參加スルコトヲ得

第七條　理事ノ任期ハ之ヲ五年トシ一回兼選セラルヽコトヲ得、但シ國際聯盟理事會カ輪番制ヲ定メタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第八條　理事會ハ其ノ理事中ヨリ常設執行委員會ヲ任命スヘシ、右常設執行委員會ハ議長、異レル五國ノ國籍ノ理事五名及顧問ノ資格ニ於ケル學藝協力國際協會幹事若クハ其ノ代理人ヲ以テ組織セラルヘシ、右委員會委員ノ任期ハ之ヲ二年トシ再選セラルヽコトヲ得、國際聯盟事務總長及國際勞働事務局長ハ理事會ノ會議ニ付第六條ニ規定セラレタル條件ノ下ニ之ニ參加スルヲ得

理事會及常設執行委員會書記ノ任命ハ國際聯盟事務總長理事會議長ニ諮問シタル後之ヲ爲スヘシ

第九條　幹事ハ七年ノ任期ヲ以テ理事會ニ依リ任命セラルヘク更ニ一任期ヲ以テ再任セラルヽコトヲ得

幹事ハ理事會議長ノ提案ニ基キテ任命セラルヘシ

第十條　理事會ハ少クモ毎年一回會合スヘシ

理事會ハ院ノ事業ニ對シ一切ノ監督權ヲ有シ各種ノ國際的施設（殊ニ學藝協力國際協會及國際勞働事務局）ノ權限及他ノ一切ノ資格アル國際的團體ノ事業ヲ充分考慮シテ隨時事業計劃ヲ立ツヘシ

第十一條　各國政府並ニ國際聯盟ノ諸機關ハ聯盟理事會ヲ通シテ特別ナル提案ヲ提出スルコトヲ得ヘク協會ハ之ヲ審議スルコトヲ要ス

前項ノ範疇ニ入ラサル國内的及其ノ他ノ施設及團體ハ理事會ニ對シ提議スルコトヲ得

第十二條　理事會ハ特別ノ問題ノ審査及研究ヲ專門家委員會ニ附スルコトヲ得

第十三條　理事會ハ亦國際協定締結ノ目的ノ爲國際會議ヲ召集スルコトヲ適當ナリト認メタル場合自ラ之ヲ聯盟理事會ニ發議スルコトヲ得

第十四條　協會ハ國際フイルム收藏所ヲ設立スヘシ、右收藏所ハ教育「フイルム」ノ一般目錄ヲ編纂シ且之ヲ最新ノモノニ作リ置クコトヲ要ス

第十五條　理事會ハ其ノ第一回會議ニ於テ左記ヲ規定スヘシ

一、財政規定

二、監理規定

右監理規定ニハ特ニ人事規則、理事會、執行委員會及專門家委員會ノ規定、職務組織ノ大綱及一般的ニ院ノ事務執行上必要ナル一切ノ規則ヲ定ムルコトヲ要ス

右ニ規定ハ國際聯盟理事會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス、右規定ハ承認ヲ經タル後伊太利國政府及其ノ他ノ國際聯盟國ニ通告セラルヘシ

第十六條　理事會及常設執行委員會會議ノ經費ハ協會ノ豫算ヨリ支出セラルヘシ

第十七條　協會ノ公用文ハ之ヲ獨逸語、英語、西班牙語、佛蘭西語及伊太利語トス

第十八條　協會ノ事業ニ關スル報告ハ毎年之ヲ國際聯盟理事會及伊太利國政府ニ提出シ且一切ノ聯盟國ニ通告スヘシ

山形縣社會教育映畫協會

昭和二年設立、本邦最初の教育映畫聯盟として知られてゐる山形縣社會教育映畫協會は、當時、會員二〇、豫算二五〇〇圓を有したるが、最近次第にその內容を整備し、本年度に於ては會員數二六に增し、豫算三一五〇圓を計上した。

今昭和三年度事業成績を概觀するに次の如くである。

一、會員數

教育會	九
學校	六
町村	四
青年團	二
その他	五
計	二六

一、所有映畫　二七種　七二卷

一、映畫貸與回數　九一回

一、貸與先

會員の他

市、町村	四
學校	一
女子青年團	一

◉フィルムの頒布に就いて

一、**頒布フィルム**

後掲目錄に記載のものはすべて頒布す。二卷以上一組のものも希望により全卷分割頒布す。

二、**頒布價格**

全部一尺に付金拾五錢の割とす。

但し「日出づる國」「覺めよ國民」及「二つの世界」は昭和五年三月末日迄に申請のものに限り一尺に付拾貳錢の割とす。

三、**頒布申請の手續**

フィルムの頒布を受けんとする者は、左記樣式の頒布申請書を本省に差出すこと。

但し、フィルム觀覽の上頒布を受けんとする者には本省映寫室に於て試寫供覽す。

四、**代金納入及びフィルム交付**

フィルムの代金は申請書受理後本省より送付する納入告知書により最寄日本銀行本支店又は代理店に納入のこと。然る時は直ちに本省よりフィルムを交付す。

但し、この場合フィルムの送料及び荷造費を要せず。

五、皇室ニ關スル活動寫眞「フィルム」頒布申請書

一　フィルム名稱　　　巻　數

昭和三年文部省告示第三百四十二號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付右御頒布相成度

年　月　日

申　請　者

住　所

何々學校長　氏　名　㊞

文　部　省　宛

六、

活動寫眞「フィルム」頒布申請書

一　フィルム名稱　　　巻　數

昭和三年文部省告示第三百四十二號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付右御頒布相成度

年　月　日

申　請　者

住　所

氏　名　㊞

文　部　省　宛

◉フイルム貸與に就いて

一、貸與フイルム

後掲目錄中●印を附したるものに限り貸與す、但し皇室に關するフイルムは公益の目的の爲に使用する者以外には貸與せず。

二、使用料

總て一卷一日金壹圓の割とす。但し往復運送に要する日數は加算せざるも、使用期間滿了の翌日中に發送せざる時は遲滯日數に對する使用料を追徵す。

三、荷造費及運賃

往復とも被貸與者の負擔とす。

四、貸與申請の手續

フイルムの貸與を受けんとする者は、別記樣式の貸與申請書を成るべく使用期日の一週間以前に本省に到着する樣差出すこと。

五、使用料の納入手續

使用料は前納とし、本省に於て申請書受理後送付する納入告知書に依り最寄日本銀行本支店又は代理店に納入のこと。但し急を要する場合は豫め郵便爲替にて前納するも差支なし。

活動寫眞「フイルム」貸與申請書

昭和三年文部省告示第三百四十三號所定ノ事項ヲ遵守スベキニ付左記ノ通「フイルム」御貸與相成度

記

一 フイルム名稱　卷數

一 使用ノ目的

一 使用ノ期間

一 使用回數

一 使用場所

一 映寫機名稱

一 映寫技師ノ職氏名

一 説明者ノ職氏名

年　月　日

申請者
住所
職名　氏名　㊞

文部省宛

文部省製作 活動寫眞フイルム目錄 （●印は貸與をもするもの）

◎皇室に關するもの

フイルム名稱	摘要	卷數	尺數（價格）
●皇太子殿下御成婚ノ御儀	皇太子殿下赤坂離宮御出門並良子女王殿下宮邸をお出ましより御目出度御同列にて御還啓迄御盛典の御模樣を拜寫せるもの。	二	一、八〇〇（二七〇・〇〇）
●東宮同妃兩殿下神宮並山陵御參拜	御成婚奉告の御儀行なはせ給ふ爲東京驛御發車より伊勢大廟、畝傍神武天皇御陵及伏見桃山兩御陵御參拜の御模樣を詳細に拜寫せるもの。	三	二、六六〇（三九九・〇〇）
●觀菊會	赤坂離宮に於ける觀菊會の御催し並に御苑の御模樣を拜寫せるもの。	二	一、二三〇（一八四・五〇）
皇太子殿下葉山海岸御水泳	葉山海岸に於て殿下が近侍の人々と共に御水泳遊ばされ水中射撃、水中筆書等に御妙技を發揮せらるゝ御模樣を拜寫せるもの。	一	六五五（九八・二五）
●皇后陛下御飼育の養蠶場	宮城内紅葉山の皇后陛下御養蠶場に於ける御實況にして、完備せる設備、御養蠶の御模樣等を宮内省に於て詳細に拜寫せるもの。特に陛下産業御奬勵の思召を拜し得るは畏き極みである。	一	八〇〇（一二〇・〇〇）

御渡歐の秩父宮殿下	明治神宮競技場に於ける御送別式より横濱御發航迄の御模樣殊に御發錨間際迄の御召艦上の攝政、秩父兩殿下の御威姿及艦內の御模樣等を撮影せしもの。	一	九二五 （一三八・七五）
皇太子殿下樺太行啓	大正十四年八月皇太子殿下の樺太行啓に際し特に本省撮影班が殿下御一行に隨行して稚內港御上陸より新領土各般の施設經營御巡察の御模樣を詳細拜寫せしもの。	二	一、四〇〇 （二一〇・〇〇）
大正天皇御大喪の御儀	大正天皇御大喪の御儀に際し特に宮內省と協同の上當日市內各所に於ける市民奉悼の實況葬場殿御陵所等を始め宮城より新宿葬場殿に到る靈轜の御行列東淺川假驛より多摩御陵に到る靈輦の御行列の御模樣等を漏れなく謹寫したるもの。	一	一、〇〇〇 （一五〇・〇〇）
御大禮の御儀	昨年十一月御大禮に際し京都行幸、宮城御發輦の御模樣をはじめ、名古屋御駐御、京都御着輦、御即位式大嘗祭大饗神宮並山陵御親謁等の模樣を御寫したるもの	二	一、九五〇 （二九二・五〇）
天皇陛下關西行幸	聖上陛下大島八丈島及び關西地方行幸に際し、本省撮影班を各地に派し、各地に於ける陛下の御親謁御研究御探勝等の御模樣をはじめ、各地官民の熱誠をこめたる奉迎送の實況等を謹寫せしめ、之に今回特に宮內省より交付されたる分を加へ編輯したるもの。	二	一、九一〇 （二八六・五〇）

◎名勝に關するもの

麗はしき「日光」	名勝「日光」の壯麗華麗なる人工美と神秘幽邃なる天然美とを遺憾なく撮影せるもの。	二	一、三七〇 （二〇五・五〇）
日本三景 雪の松島	東京美術學校寫眞部に於て斯の方面に造詣深き畑保之氏を指導者として、八百八島變化極りなき松島灣の風光乃至地理歷史の參考資料に富める名刹古蹟等を最も藝術的に撮影せしもの。	二	一、五〇〇 （二二五・〇〇）
日本三景 安藝の嚴島	特に實寫に秀でたる技師を派遣して秋の嚴島の風光平家榮華の昔を偲ぶ舞樂其他歷史地理に關する事項を參酌して撮影せしもの。	二	一、四〇〇 （二一〇・〇〇）
日本三景 天の橋立	由來橋立は日本三景の一として、世評高きに拘らず單獨に橋立のみを撮影して成功せる映畫殆んどなきに鑑み、同地につき充分研究を遂げ特に實寫に秀でたる技師及監督を派遣して各方面より見たる橋立風景及附近の名刹古蹟等を撮影したるもの。	一	七八〇 （一一七・〇〇）
日本三景	日本三景「陸前の松島」「安藝の嚴島」「丹後の天の橋立」の風光を一卷に收めたる清新にして雅致ある藝術的風景映畫なり	一	九四〇 （一四一・〇〇）
十和田湖探勝	新日本八景の隨一と稱せらるゝ十和田湖及其附近の明媚なる風光を最も藝術的に撮影したるもの。	一	八八〇 （一三二・〇〇）

◎山岳に關するもの

秩父宮殿下立山御登山	本省撮影班が多大の艱苦を嘗めて御勇敢なる殿下の御行動を洩なく謹寫し且つ立山連峰の壯觀を撮影せしもの。	二	一、五〇〇 （二二五・〇〇）

日本アルプス縱走	動植鑛物等各專門家に依囑し殊に松本女子師範教諭小泉秀雄氏を撮影補導者として烏帽子岳より燒岳に至る北アルプス一帶大自然の壯觀及各種珍奇なる高山動植物等を撮影せるもの。風景映畫にして學術映畫を兼ねたり。	二	一、八〇〇	(二七〇・〇〇)
富士と五湖巡り	本省撮影班が富士に登り更に山麓の所謂富士五湖を巡りて其の雄大にして明媚なる風光を撮影し加ふるに附近の地質植物歴史等に關する參考資料を收めたる藝術味豊かなる風景映畫と學術映畫とを兼ねたものなり。	二	一、二五〇	(一八七・五〇)
黑部峽谷探險	本省撮影班が冠松次郎氏を指導者として人跡未踏の神秘境と稱せらるゝ富山縣黑部川上流の峽谷を探險し、その幽邃豪壯なる風景、珍奇なる動植物等を撮影すると共に一行の苦心探險の有樣を示したるもの。	三	一、九〇〇	(二八五・〇〇)
劒岳	冠松次郎氏を指導者として、劒岳登山を試み、十數日間山中に起臥して苦心撮影したるもの。雄大豪壯なる劒岳一帶の風光と危險なる高山登攀の實況を收めたり。	二	一、二二〇	(一八三・〇〇)
赤石岳	赤石岳を中心とする日本南アルプスの風光を紹介し、併せて地理、登山上等の參考に資くるため、本省撮影班が本年初夏の頃十數日に亘り殘雪尚深き南アルプスを踏破して附近一帶の風景と登山の實況とを撮影したもの。	二	一、八〇〇	(二七〇・〇〇)

◎地理に關するもの

雪の北越	特に實寫に秀でたる技師を丈餘の雪に埋もれる北越地方に派遣して其の特殊な生活狀態運動遊戯乃至交通機關等を撮影すると共に、雪國の自然美の數々を收めたる清新なる藝術的風景映畫なり。	一	八二〇	(一二三・〇〇)

我國の火山	全國の著明なる火山に登りその實景を撮影すると共に附近の温泉、湖沼、河川等火山と密接の關係あるものは總て之に收め、更に線畫を用ひて說示する等一見して火山の分布、種類、特徵、成因、影響等火山に關する智識を修得し得る樣製作したるもの。	二	二、〇〇〇	(三〇〇・〇〇)
我が南洋	約半歲の日子を費して我が南洋の新領土トラック、ポナペ、クサイ諸島の風土、住民の衣食住、風俗習慣、產業、島の動植物等を始め、行政、教育、宗教、交通等の諸設備をも詳細に撮影したるもの。	六	五、三三〇	(七九九・五〇)
駒ヶ岳の爆發	北海道駒ヶ岳爆發の實況と附近一帶の慘害の實狀等を詳細に撮影したる實寫に多數の線畫を挿入し學術的說明を加へたるもの曩に製作せる「我國の火山」の姉妹作なり。	二	一、六〇〇	(二四〇・〇〇)

◎動物に關するもの

北海の奇觀海豹島	本省撮影技師が特に樺太廳の援助を得て難航と危險を冒し同島に於ける膃肭獸及海豹の自然棲息狀態並之が保護捕獲の狀況を撮影せるもの。	一	八七〇	(一三〇・五〇)
「うみねこ」の蕃殖地蕪島	「うみねこ」の群棲地として知られ、天然記念物として指定せられたる靑森縣の蕪島及び附近一帶の風光と「うみねこ」の棲息、蕃殖等の狀況を詳細に撮影したるもの。	一	九〇〇	(一三五・〇〇)
動物界の母性愛	蟲類等の下等動物より鳥類哺乳類等に至る迄諸種の動物が其の子を愛撫養育する樣を撮影し動物の習性親子間の情愛を示したるもの。	一	九五〇	(一四二・五〇)

海の生物	海中撮影により更に海の生物二十餘種の棲息狀態を明細に收め各種水中生物研究の狀況等をも加へたるもの。學術映畫として斯學好箇の研究資料たるべきは勿論學校教科の補助として將又廣く一般の科學智識涵養の上に資する所多大なるべし。	二	一、七〇〇 (二五五・〇〇)

◎産業に關するもの

● 北方の富源 樺太の産業	我新附の富源たる樺太の漁業、林業、乃至農牧業等の狀況並同島先住民族の風俗等を詳細に撮影せるもの。	一	一、〇〇〇 (一五〇・〇〇)
● 我國の製鐵工業	八幡製鐵所の特別なる援助の下に同所に於ける作業實況を漏れなく撮影せしもの。教科の補助として乃至各種工業の基礎たる製鐵工業の智識を普及する上に於て裨益する所尠からざるべし。	二	一、五〇〇 (二二五・〇〇)
我國の農業	從來我國に行はれたる農業と各地に於ける改良農業との實況を示し、以て我國農業の改善すべき道を說き農業奬勵に資せんとするもの。學理の應用經營法の改善、機械農具の利用各種副業等を詳細に收めたり。	二	一、八〇〇 (二七〇・〇〇)
鮭	北海道千歳鮭鱒孵化場及び其附近に於ける、鮭の捕獲、採卵、人工孵化等の實況を示したるもの。	一	九〇〇 (一三五・〇〇)
有用動物「牛」	牛の效用に就て各種の方面より觀察し一々之を說示し牛が我々日常生活と如何に密接なる關係を有するか、如何に廣く利用せらるゝかを示したるもの。	一	九四〇 (一四一・〇〇)

◎職業教育に關するもの

婦人の職業 優しき力	都鄙を通じて或は昔ながらの或は近代的の婦人職業の實際を一々精細に收め更に之等の職業に係はり各種産業に貢献する婦人の努力を紹介し我國婦人風俗の一班を知らしむると共に婦人の職業指導上の資料に供せんとするもの	二	一、九〇〇 (二八五・〇〇)
實業補習教育	小學校を卒へたる男女青少年が仕事のかたはら實業補習學校で職業の事や市町村民として必要なることを學習してゐる實況を示し實業補習教育並に職業指導上に資せんとするもの。都市、農村、漁村各一卷をなす。	三	二、七三〇 (四〇九・五〇)

◎運動育に關するもの

● 運動競技の分解	競走、跳躍、投擲、庭球、野球、端艇、水泳等に就き一流選手の妙技を高速度撮影機にて撮影し、主要部分を分解して示したるもの。	二	一、九〇〇 (二八五・〇〇)
● 女子の運動	最近勃興せる女子運動競技の實際を紹介せん爲、全日本女子選手權大會關東豫選會に於ける各種競技の狀況並二階堂體操學校及東京女子高師の體操、舞踊遊戯其他を撮影し、一流選手の運動を分解して示したるもの。	二	一、八七〇 (二八〇・五〇)
● 復活せる早慶野球戦	廿年振りに復活し全國野球ファンを熱狂せしめたる早慶戰の實況にして、特に本省のみ之を撮影し營業者にも頒布したるものにして記念すべき映畫なり。	一	一、〇〇〇 (一五〇・〇〇)

●我國の古武道	我國古來の武道の精神及型を後世に傳ふると共に武道精神の鼓吹に資せんがため劍道、柔道、弓道、薙刀、鎖鎌、槍術等に就て夫々當代の權威者に依囑し約一ヶ年を費して其の秘術妙技を撮影完成せしもの、	五	一四、〇〇〇（六〇〇・〇〇）
昔の競技	古來我國の宮廷に於て或は武士の間に於て盛に行はれたる蹴鞠、打毬、流鏑馬、母衣引及台覽相撲等或は優雅或は勇壯なる之等競技の實際を廣く一般に知らしむると共に永く後世に傳へて國民教育上の資料に供せんが爲今回特に宮内省より下付されたる同省秘藏の原版に依りて作製したるもの。	三	二、二二〇（三三三・〇〇）
陸上競技	各種陸上競技に關し夫々我國一流選手の模範的フォームを示すと共に重要にして難解なる敏速の運動微妙の動作等は或は高速度撮影サスペンション法線畫等種々の方法と技巧とを用ひコーチ用映畫として作製したるもの。	三	二、九五〇（四四二・五〇）
女子の體育	從來、我國に於て比較的等閑視せられたる女子體育の必要を說き、現今行はれつゝある各種の女子體育、運動競技等の實際を示したるもの。	一	九四〇（一四一・〇〇）
冬のスポーツ	數ある冬季のスポーツ中、最も壯快にして興味ある、スキー及びスケートにつき、各一流選手の競技振、種々の型、練習の方法等を撮影すると共に雪國特有の自然美の數々を收めたるもの。	一	八〇〇（一二〇・〇〇）
ボートとその漕ぎ方	日本漕艇協會指導の下に、國際オリンピック競技會出場選手に委囑して、短艇漕法の理論と實際を撮影し、更にスカルの漕法、都下各大學のボート・レースの實況等を加へ、一々詳細に說示したるもの。	一	六五〇（九七・五〇）

水泳	日本游泳聯盟に委囑して斯道の一流選手を集め、日本古來の各種游泳法及近時の競泳法等を一々精細に撮影しコーチ用として編輯したるもの。	二	一、四二〇（二一三・〇〇）
體操	陸軍戶山學校、東京高等師範學校、東京女子高等師範學校、日本體育會、體操學校等に依賴し普通體操の各種目に亘り撮影し、その模範的型を示し體育奬勵に資したるもの。	一	八三〇（一二四・五〇）
雪國の一日	本年二月高田金谷山スキー場にて開催されし、全日本スキー大會の盛況とそれに出場せし諸威スキー選手の模範的の型を高速度撮影を利用して撮影し雪國獨特の風景を加へたるもの。	一	七三〇（一〇九・五〇）

◎衛生に關するもの

●傳染病の病原體	我國に於て製作せる最初の顯微鏡映畫にして東京帝大傳染病研究所技師內務技師佐藤秀三氏指揮の下に約半歲を費して苦心の結果完成せしもの。我國に於ける主要なる傳染病の病原體を網羅せり。	二	一、三五〇（二〇二・五〇）
●蚊の一生と疾病の傳播	蚊の研究者として名ある東京帝大傳染病研究所技師山田信一郎氏指導の下に撮影せしもの。蚊の成長經過及其の疾病傳播狀況を最も詳細に示したる顯微鏡映畫なり。	一	八八五（一三二・七五）

蠅とその害毒	東京帝國大學傳染病研究所山田博士指導の下に數ケ月に亘り多大なる苦心と細心の注意を拂つて完成せしもの。蠅の種類、發生、成育、蕃殖等の狀態は勿論特色ある各機關の構造等を明にし更に之等蠅が各種傳染病傳播の媒介をなし人間生活に及ぼす害毒を指摘してその驅除方法をも詳細に示したるもの。	二	二、〇〇〇	(三〇〇・〇〇)
十二指腸蟲の發育と其感染經路	東京帝大傳染病研究所指導の下に人體寄生虫最も恐るべき「十二指腸蟲」に就きその發育狀態並に感染經路を或は顯微鏡撮影により或は線畫による等數ケ月を要して明細に撮影し加ふるに之に關する豫防驅除等の注意を詳細に說示したるもの。	二	一、八二〇	(二七三・〇〇)
人體寄生蟲と其の中間宿主	東京帝大傳染病研究所宮川博士指導の下に約半歳の日子を費して苦心完成したるもの。主要なる人體寄生虫十數種につき一々その發育感染經路を明細に說示すると共に之等寄生虫とその中間宿主たる各種の小動物との關係をも示したるもの。	二	一、七五〇	(二六二・五〇)
病毒の傳播（線畫）	恐るべき病毒が各方面に傳播する有樣と之に對する注意豫防法等を示したるもの、概して難解無味なる斯種映畫の弊に鑑み材を日常生活に採り特に全部線畫にて示したるを以て何人にも興味あり且容易に首肯し得らるゝ衛生健康法の通俗敎科書ともいふべき映畫なり。	一	一、〇〇〇	(一五〇・〇〇)

◎育兒に關するもの

子供の育て方	東京帝大小兒科部長栗山博士並前日本醫大小兒科部長石橋博士指導の下に數ケ月を費して作製し、至難なる子供の育て方を最も懇切詳細に示したるもの。	二	一、九二〇	(二八八・〇〇)

乳兒の榮養	斯界に名ある前日本醫科大學小兒科々長石橋博士指導の下に、乳兒の榮養、特に至難とせらるゝ人工榮養の方法及之に關する注意等を詳細に說示したるもの曩に製作したる「子供の育て方」の姉妹作なり。	一	一、〇〇〇	(一五〇・〇〇)

◎記錄映畫

關東大震大火實況	本省撮影班が幾多の危險を冒して撮影せしもの、殊に第五巻には皇后陛下並攝政殿下の災害地御視察及傷病者御慰問、又は良子女王殿下罹災民の爲に御針を運ばせらるる御模樣等を拜寫せり。	五	三、九〇〇	(五八五・〇〇)
帆走練習の大成丸	東京高等商船學校の練習船大成丸の帆走練習中の實況及岡田文部大臣視察の模樣を撮影せるもの。	一	五五五	(八三・二五)
航空船にて復興の帝都へ	我が海軍の新航空船にて、前後數回に亘りて空中より復興途上にある帝都及其近郊を完全に撮影し、加ふるに航空船の出航着陸乃至航行中の操作等を收めたるもの。	一	九五〇	(一四二・五〇)
第三回汎太平洋學術會議	我國に於て開催せられたる第三回汎太平洋學術會議の狀況を詳細に收め更に同會議に出席せる各國著名の學者の風貌をも加へて之を廣く一般に知らしむると共に永く後世に記念せんとするもの。	一	七五〇	(一一二・五〇)
國際親善人形のお使	國際親善の使として全米四十八洲の兒童より我國に送り來れる人形の橫濱入港、各地に於ける歡迎會、人形展覽會の模樣等を詳細に收め之を廣く一般に知らしむると共に永く後世に記念し國際親善に資せんとするもの。	二	一、五〇〇	(二二五・〇〇)

悠紀主基齋田御田植祭	昨秋行はせられたる、御大禮諸儀中大嘗祭に供御の新穀を作り奉る悠紀主基兩齋田御田植祭の模樣を詳細に收めたるもの。	一	六五〇 (九七・五〇)
悠紀主基齋田拔穗式	大嘗祭供御の新穀を作り奉る悠紀主基兩齋田に於ける拔穗式の御模樣を詳細に撮影したるもの。	一	六五〇 (九七・五〇)
御大禮觀兵式、特別觀艦式	昨年十二月擧行せられたる代々木練兵場に於ける大禮觀兵式並に横濱港外に於ける大禮特別觀艦式の實況を撮影したるもの。	一	七五〇 (一一二・五〇)
閑院宮殿下御親謁 京都府〔青年訓練 學校教練	昨年九月閑院宮殿下御親謁の下に行はれたる京都府に於ける青年訓練並に學校教練の實況を收めたるもの。	一	五四〇 (八一・〇〇)
世界一週飛行ツエッペリン伯號	獨逸航空船ツエッペリン伯號の世界一週の途次我が國來訪に際し、その航空著陸乃至出航等の實況をはじめ、同航空船の構造設備等の模樣をも撮影し、且つ線畫を加へて說示したるもの。	一	一、〇〇〇 (一五〇・〇〇)

◎劇映畫

納稅美談 北國の少年	山形縣下に於ける事實談に據り本省撮影班が當該村役場小學校及少年の家並實際人物に就て撮影せしもの。	二	一、一一〇 (一六六・五〇)
故(ふる)郷(さと)の唄	本省に於て懸賞募集せる映畫劇脚本梗概當選「水車小屋の子」を脚色し「日活會社」に委囑し特に俳優の人選等に注意して入念に製作せしもの。輕薄なる都會の風を排し農村振興を强調せる興味深き映畫なり。	五	三、七五〇 (五六二・五〇)

情(なさけ)の光	本省に於て懸賞募集せる映畫劇脚本梗概當選作を脚色し特作映畫社に委囑して製作せしもの。罪人を父に持ち貧困にして病める母を養ふ少年の孝心と富裕なる少女の同情心と相俟ちて美しき人情の極致を發揮せる情味豐なる映畫なり。	五	四、六〇〇 (六九〇・〇〇)
公衆作法 東京見物	各方面の關係者專門家等の愼重協議を經て我國民に最も缺けたる汽車、汽船、電車、街路、公園、圖書館、集會、會食等に於ける公衆としての道德作法を極めて容易に、且つ實際的に理解せしめんが爲特に從來の宣傳映畫の弊に鑑みて東京見物の劇に仕組みたるもの。興味ある公衆作法の通俗教科書にして又有益なる新東京見物案內書とも云ふべき映畫なり。	五	四、二〇〇 (六三〇・〇〇)
奉公美談 父を助けて	嘗て各新聞紙上に報道せられ滿天下の感激と同情の的となれる、福岡縣下駛馬小學校兒童渡邊保一家の哀れにも美しき忠孝美談を脚色し陸軍省第六師團及福岡熊本兩縣廳の後援を得て漸く完成せるもの。	四	三、三〇〇 (四九五・〇〇)
この子この親	本省懸賞募集映畫劇脚本當選作「子の爲親の爲」により改作したるもの。半生を數奇の運命に弄されたる淪落の女が純眞なる孤兒の愛によつて飜然眞面目な女工となり貧苦と戰ひつゝ其の子を養育しその子の幸福の爲に波亂ある生涯を送るといふ美しき人情を描寫せるもの。	四	三、三〇〇 (四九五・〇〇)
鍬の光	懸賞募集一等當選作を映畫にしたるもの。淋れゆく農村を背景として勤勉なる一青年の生活を描きその義母に仕ふる孝心と純情とは無賴の義弟を改悛せしめ更に彼が世の爲人の爲に盡す公共心は遂に一村を感化するといふ情味豐かなる映畫なり。	四	三、二八〇 (四九二・〇〇)

◎線畫

壺	親孝行の漁師の網に懸りたる壺より何が現はれ如何なる場面が展開されて行くか要は忘恩背徳の行爲を戒めたる一篇の寓話なりと雖物語の内容と線畫の持つ獨特の味さ相俟つて大人にも子供にも興味深きもの。	一	一、〇〇〇	(一五〇・〇〇)
七つの夢	少年が一夜夢のうちに妖精に伴はれて七つの島々を巡り種々の事件に遭遇し樣々の體驗と教訓とを得て歸るといふ一篇の寓話を嶄新警拔なる線畫としたるもの。	二	一、九五〇	(二九二・五〇)
魚の國	海底に沈みし潜水艦に住める魚族は常に鯨に同族多く喰はれし爲、一同は結束し、一團となりて大敵鯨に向ひ見事に敵を斃せしも、その祝勝式の時あまり破目をはづせるため、遂に漁夫に釣り上げらるゝといふ、油斷大敵「勝つて兜の緒をしめよ」の意を寓した兒童向の教育漫畫なり。	一	一、〇〇〇	(一五〇、〇〇)

◎時局に關する教化映畫（この三種の映畫は昭和五年三月末日迄に申請したる者に限り特に一尺に付金拾貳錢の割を以て頒布す）

日出づる國	光輝ある我が歷史の跡をたづね、遠く建國の昔より現代に至るまで、各時代幾多の國難に君民一體擧國一致よく之に處し、我が國文化を進展せしめたる過程を示し、更に、今新に我等に直面せんとする國難を暗示して、國體觀念養成並國力培養に資せんとするもの。	三	二、六〇〇	(三一二・〇〇)
覺めよ國民	平安豊穰の國土と讃へられたる我が國か經濟上なめつゝある苦難の現狀を各方面より解剖し、この國家の難局に際して、偷浮華放縦淚費奢侈等の弊風著しきを指摘して博く國民の自覺に訴へ、擧國一致勤儉力行以て國力を培養してこの難局を打開すべき方途を示したるもの。	二	二、〇〇〇	(二四〇・〇〇)

二つの世界	勤勉な蟻と、安逸放縦に暮す蛙、螽蟖蝶等の二つの生活を對照して、「夏歌ふものは冬泣く」といふ勤儉力行の訓へを興味深く說示した淸新なる教訓漫畫。	一	一、〇〇〇	(一二〇、〇〇)

終